

ぼうさい通信 71号



毎月16日は「防災教育啓発の日」

令和5年11月16日発行
熊本県立湧心館高等学校

今月のテーマ 災害を「自分のこと化」しよう

日本は、その国土の状況から自然災害の発生件数が多い国といわれています。また、地震大国であることは皆さん承知しているかと思います。これまでも本校3課程の防災担当（委員）から、自然災害への備えや家庭における留意点を季節毎に案内してきました。しかし、身近にいる大切な人の命や財産を守るためには、より高い防災に対する意識と防災スキルの向上、また今月のテーマである「自分のこと化」的取り組みが欠かせないように思います。

本校ではスモール訓練、防災避難訓練など「訓練」が付く取り組みは、他校より多く実施しています。これは、「いざ、という時に、身体が無意識に反応する為のロールプレイング的行動様式を養うために必要な取り組みだと考えます。小さい頃から学校や地域で防災訓練があるのは、このような目的を達成するために必要だったのです。

他人事（ひとごと）は、自分のみならず大切な人を守るために変えねばならない意識かも知れませんね。

秋季全国火災予防運動

11月9日（木）から15日（水）までの7日間、令和5年秋季全国火災予防運動が、行われました。 今年の標語は「火を消して 不安を消して つなぐ未来」

この火災予防運動は、空気が乾燥し、火災が発生しやすい今の時季を迎えるにあたり、火災予防意識の一層の普及を促し、火災による高齢者などの死者の発生や財産の損失を防ぐことを目的に実施されるものです。今年の標語は、防火の意識を高めることで社会に明るい未来が訪れるというコンセプトを標語にしたものが選定されています。

ちなみに、11月9日は、「119番の日」です。119番に連絡するようなことは避けたいことですが、もしもの時に、どのように対応したらよいかも学んでおくといいですね。

《「防災小説」で災害を「自分のこと」化》

●「防災小説」とは

「防災小説」それは自分自身を主人公として、まだ起きていない災害を想像して書き綴る物語です。

自分が災害に遭遇したら、どのように行動するのか、どのような気持ちになるのか。災害を「自分のこと」にすることがねらいとなっています。この取り組みを始

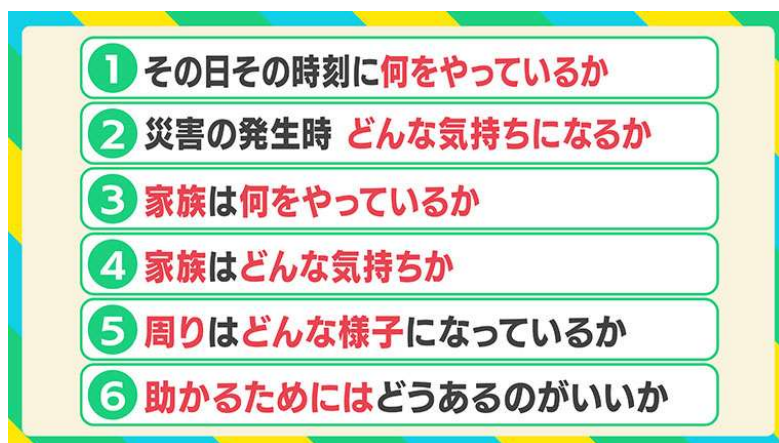
めたのが大木さん。南海トラフ地震による津波の高さが最も高くなると想定されている高知県土佐清水市での防災教育について相談を受けたことをきっかけに、2016年から書き始めました。

※大木聖子氏（慶應義塾大学准教授 専門：地震学）

● 防災小説の書き方

まず、災害が発生する日時とその時の天候を最初に設定し、その時自分は何をしているか、家族はどこで何をしているか、自分はどのような気持ちになるか、住んでいる地域の様子はどうか、などを想像します。その上で、必ず自分自身を主人公とした物語を原稿用紙2、3枚に綴ります。

“まだ、起きていない未来の災害を”すでに、起きたものとして描くことが、最大の特徴です。



大木さんは、この防災小説のメリットを「自分が主人公の防災小説を綴ることで、防災が“自分のこと、化される」と説明されています。以下は、埼玉県霞ヶ関中学校3年谷林真友（卒業）さんの作品から抜粋したものです。

…『夏休み明けずっと会いたかった友達と楽しく話をしながら下校しているその時、友達が言った。「なんかゆれてない？」そう言われてからは一瞬の出来事だった。10秒ほど強い揺れが続き、一度おさまった。想像以上だった。普段見ている景色とは変わり果てた町の姿に、私は呆然とした。「早く避難しろ」友達の声に、私ははっとした。私たちはすぐに避難所の学校に向かうことにした。しかし、それは簡単なことではなかった。道路が冠水している所もあった。「そこ深いから気をつけてね」前にいたおじさんがそう声をかけてくれた。「あそこ崩れやすいからこっち通りな」近くにいたお姉さんが教えてくれた。避難所に着き、想像以上の人の量に驚いた。だけどそれ以上に驚いたことがあった。けが人を救うためにきた救急隊の方々、物資を運んできた市や県の人達、外国の方に対応する人、みんなに指示を出して避難所を運営する人、そこには同じ中学校の友達もいた。きっとみんな私のように突然の出来事で不安だし怖いのに、助け合うその姿に私は感動した。避難しろと言ってくれた友達、避難所に行く時に助けてくれた町の人、避難所でみんなをまとめてくれた人、その一人でも欠けていたら、今の私0.0はここにいなかったと思う。』

2021年12月15日NHK

過去のぼうさい通信を見ることができます

本校のHPにアクセスしてみましょう。

HP <https://sh.higo.ed.jp/yusinkan/>ぼうさい通信（毎月16日発行）